

第10回 米代川水系河川整備学識者懇談会 議事概要

日時：令和2年11月30日（月）14:00～16:00

場所：能代河川国道事務所 第1会議室

- ：委員からの質問・意見
- ：事務局からの説明・回答

議事1：米代川直轄河川改修事業〔米代川水系河川整備計画（大臣管理区間）〕の再評価について

（委員）

- 樹木伐採で水際の樹木を保全したことによる効果について、調査をしているのか。
- 樹木を残したところと残していないところについて、水中ドローンで生態系の調査を実施している。調査結果取りまとめ後、ご報告させていただく。

（委員）

- 動植物への配慮と同時に濁水という問題も考えるべき。こういった試験施工を実施する場合は、濁水のモニタリング等、裏づけのデータを併せて一緒に議論すべきで、資料としては物足りない印象。
- 月1回は採水を実施しBOD等を測定しているが、工事中ずっと水質測定しているわけではないため、今後の参考にしていきたい。

（委員）

- 河床高変動について、断面等の検討はしているのか。他のところに影響は出ていないのか。
- 試験施工を実施したジャストポイントの河床でしかモニタリング調査を実施していないため、上下流の断面等も含め今後モニタリングしていきたい。

（委員）

- 事業途中で新たにお金が投入される際、どのようなルールで意思決定されているのか。
- 河川整備計画にてある程度決まっているが、事業費を積み上げ切れていないメニューもある。危機管理型ハードは、関東・東北豪雨を受け、構造が決まった段階でお金がつき始め、途中で追加もしている。意思決定は、ある程度軽微なところは事業者として判断させていただき、こういう場でご報告し、ご意見等をいただきながら改良していくことの積み重ねである。
- 例えば金額の過多など、意思決定のルールは必要ではないか。
- 費用と効果を比較している観点から言えばご説明するのが趣旨であり、今後はなるべくそ

れに沿うよう進めていきたい。

(委員)

○当初30年でこの整備計画を立てている中、9年程度短縮されるということ自体が事業計画としてどうなのか。危機管理対策として集中投資されたということだが、ではどこが事業計画よりも早く進んだかがこの資料からは判断しにくい。

●事業が9年短縮する件について整理し、ご説明できるようにしたい。

(委員)

○水際樹木の保全について、護岸・護床のための十字ブロック等人工的なものも含めて評価すべきと思うが、方針如何。

●根固めブロック等でも効果があると思われる。根固めブロックがあるから水際樹木を残さないということではなく、複合的に今後検討したい。

(委員)

○工事する際の新たな調査はどうなっているのか。

●工事前には過去の植物調査の結果を確認し、重要種の有無も現地で当該年度に調査している。工事によって重要種がなくなるとか、改変されることは無いよう配慮している。

(委員)

○鳥類の留まり木となる樹木の保全について、今後は、伐採前と伐採後の比較写真は同アングル、同時期とすべきである。また、鳥類も同じ時期に調査して比較するべきだと思う。

●今後は、樹木を保全したことによる効果に関する調査は、同アングル、同時期のもので整理させていただく。

(委員)

○二ツ井地区と能代地区では河道掘削を順調に進めて頂いている。今までは非常に災害の多い地域であったが、森吉山ダムの完成、河道掘削や堤防により川下での災害が減少した。その大きな要因が河道掘削であろう。大変ありがたく思っている。

(委員)

○北秋田市では中心市街地が大変低いところにあり、市役所含め重要な機関がその一帯にある。シミュレーションでは1,000年に1度の大洪水が起きると一帯が浸水する。やはり河道掘削含めた水害対策に早く向かっていかなければならない。

(委員)

- 鷹巣地区河道掘削事業では長坂地区も整備して頂いている。この事業は平成25年度の豪雨被害を受け、国土強靱化対策を基軸に整理が図られており、米代川の治水だけでなく、県の治水、市の治水にも大きく貢献頂いていることに感謝申し上げる。

情報提供について

- ・流域治水について

(座長)

- 住民がハザードマップを作り、自らの地域が危険かどうか感じ取る。また、1階を駐車場にして床を高くすることに補助をするなど、良い方向に持って行って頂きたい。

審議結果について

1. 米代川直轄河川改修事業 [米代川水系河川整備計画 (大臣管理区間)] の再評価について

- 事業の継続は妥当と判断する。

- 審議結果は後日開催する事業評価監視委員会に報告する。